



平成21年10月15日

鳩山 由紀夫 内閣総理大臣 殿

宇宙生物学に対するさらなるご理解とご支援を要望します

日本宇宙生物学会 会長 森 滋夫

次期会長 大西 武雄

宇宙生物学は、太陽系や地球の歴史の解明と平行して生命の起源を探るアストロバイオロジー、地球という星で進化しその環境に適応してきた多様な生物のありさまを明らかにする惑星生物学、そして人類の宇宙への進出を実現するための生物・生態系工学、といった広い分野を包含する科学領域です。日本宇宙生物学会は、この領域における研究推進の中核として活動し、多くの成果を生み出してきました。

新しい政府においては、日本独自の有人宇宙計画や太陽系探査を含む新時代の宇宙開発利用を構想中と聞き及んでいます。宇宙生物学は、ただ単に科学的な好奇心に答えるだけではなく、人類が宇宙開発利用を目指して宇宙へ進出しようという希求を実現していく事業を支える科学技術と工学にも深く関わっています。たとえば、宇宙放射線の生物影響、低重力下での植物栽培や動物育成、長期閉鎖空間居住における食物・栄養や衛生・健康管理、宇宙環境と地球環境を守るための宇宙検疫、などに関わる事業を推進するに当たって、生物学的知見は大変重要です。また、苛酷な環境条件下に適応して生き延びる生物のしくみの理解は、地球の急激な環境変化への対処を考える手がかりを与えてくれるでしょう。そして、重力の影響下で人間が生きているしくみを理解することは、生理機能が低下する高齢者の健康や安全のための施策を通して社会の福祉に寄与します。さらに、活力ある日本の社会を維持、発展させる上で枢要である次世代の教育において、広い視野をもち、生命の尊厳を理解し、科学することの重要性を認識するにも、宇宙生物学は格好の素材を提供します。このように、宇宙生物学は今後とも新しい宇宙開発利用の担い手として活動して行く所存です。

しかしながら、宇宙生物学にかかわる日本の優れた研究は、日本固有の文化・歴史的な背景のもとで基礎的な科学の基盤に根ざして着実に積み上げられてきたものであり、この事実は国際的にも高く評価されています。最近の我が国の科学研究推進政策では、最先端研究開発支援プログラムに代表されるように、過度の集中と性急な成果主義が目につきます。このような姿勢は、研究者の知的好奇心と自由な発想に基づく本来の科学研究とはかけ離れており、むしろその健全な発展を妨げるものであるといえます。宇宙開発利用においても、十分な基礎研究の基盤に立脚してはじめて安定した長期的な展望が期待できます。このような潮流をさらに系統的に発展させ、国際的な競争と協調・連携のもとに宇宙での活動を進めることによって、日本は人類が共有する財産である科学と宇宙の活動を主導することができ、ひいては、尊敬される国としての力量を示すことにもなります。宇宙基本法でも、「人類の宇宙への夢の実現及び人類社会の発展に資する宇宙科学の振興」の推進と並んで、「宇宙開発利用に関する基礎研究及び基盤的技術の研究開発」の推進が謳われています。日本宇宙生物学会は、あらためて、将来を見すえた宇宙生物科学研究の重要性を提起し、宇宙生物学の着実な展開を可能にする我が国の宇宙にかかわる施策の立案とそれを支える適切な体制の構築を要望します。

CC: 前原 誠司 宇宙開発担当大臣

川端 達夫 文部科学大臣

立川 敬二 宇宙航空研究開発機構理事長